

亜種の関係と認めるのが妥当と思う。

高木博士 (1964) は本邦のシッポゴケ属の再検討をされたが、*D. elatum* の図と記載文を作られた標本は *D. undulatum* (*D. Bergeri*) の葉が鋭尖する一形である。*D. undulatum* では葉背はおおむね滑らかであるが、時には乳頭のあるものもある。この型はかつて櫻井博士が *D. pseudobergeri* と名づけられたものである。高木博士が引用された標本の中、樺太敷香のものは *D. Drummondii* ssp. *elatum* である。

○シロバナミズギボウシ (小池常雄) Tuneo KOIKE: A white-flowered form of *Hosta longissima* Honda var. *brevifolia* F. Maekawa.

ミズギボウシは、愛知県西南部の湿地帯に自生していることが知られている。遠江地方の浜名湖周辺に点在する湿地帯にも、ミズギボウシの群生が見られ、8~9月に淡暗紫色の花を開く。1969年9月静岡県浜名郡湖西町地内の植物調査をした際、ミズギボウシの群落中に花被が白色のものを数株採集した。東京大学名誉教授本田正次博士の御意見に従い、新品種として記録する。自生地は、海拔 30 m の南斜面で、日射が強い湿潤地で PH 値 6.7 である。 (浜松誠心高等学校)

***Hosta longissima* Honda var. *brevifolia* F. Maekawa form. *albiflora* Honda et Koike form. nov.**

Flores albi, cetera ut in typo.

Nom. Jap. Shirobana-mizu-gibôshi (nov.)

Hab. Honshû; Kosai-chô, Hamanagun, Shizuoka pref. (Sept. 10, 1969, T. Koike-type in Herb. Tokyo Univ.)

□東京都：続 小笠原諸島自然景観調査報告書，B5，写真地図多数，250頁，303，1970。東京都建設局公園緑地部発行，前年刊行された同一書名のものと続篇で，内容は調査の経過及び概括，小笠原諸島の地形地質，植物，動物，海中生物等の5部より成り，植物部門は津山尚氏が担当し，附記として硫黄島，西之島にふれていて66頁を領し，ムニンビャクダン，オガサワラツツジ，ワダンノキなどの線図，アツバコ，シマカナメモチ，コハマジンチョウ，オガサワラシコウウラン，ムニンノボタン，シマザクラなどのカラー写真の他約30の植物や景観の白黒写真があるとともに，現在の総目録がある。要するに多年にわたる同氏の小笠原諸島の総知識の集積で，現在における完全な目録である。定価はかいてないが，非売品としてもいないから適当な手つづきをすれば手に入ると思われる。 (久内清孝)